



深大寺と水

チームケバブ

17N1009 植松潤

17N1012 江村美玲

17N1047 佐々木弘

17N1092 藤井鴻輔

17N1101 宮澤哲平

17N1103 三好沙季

アドバイザー

宮崎元希

隅田隼平

和久井景太

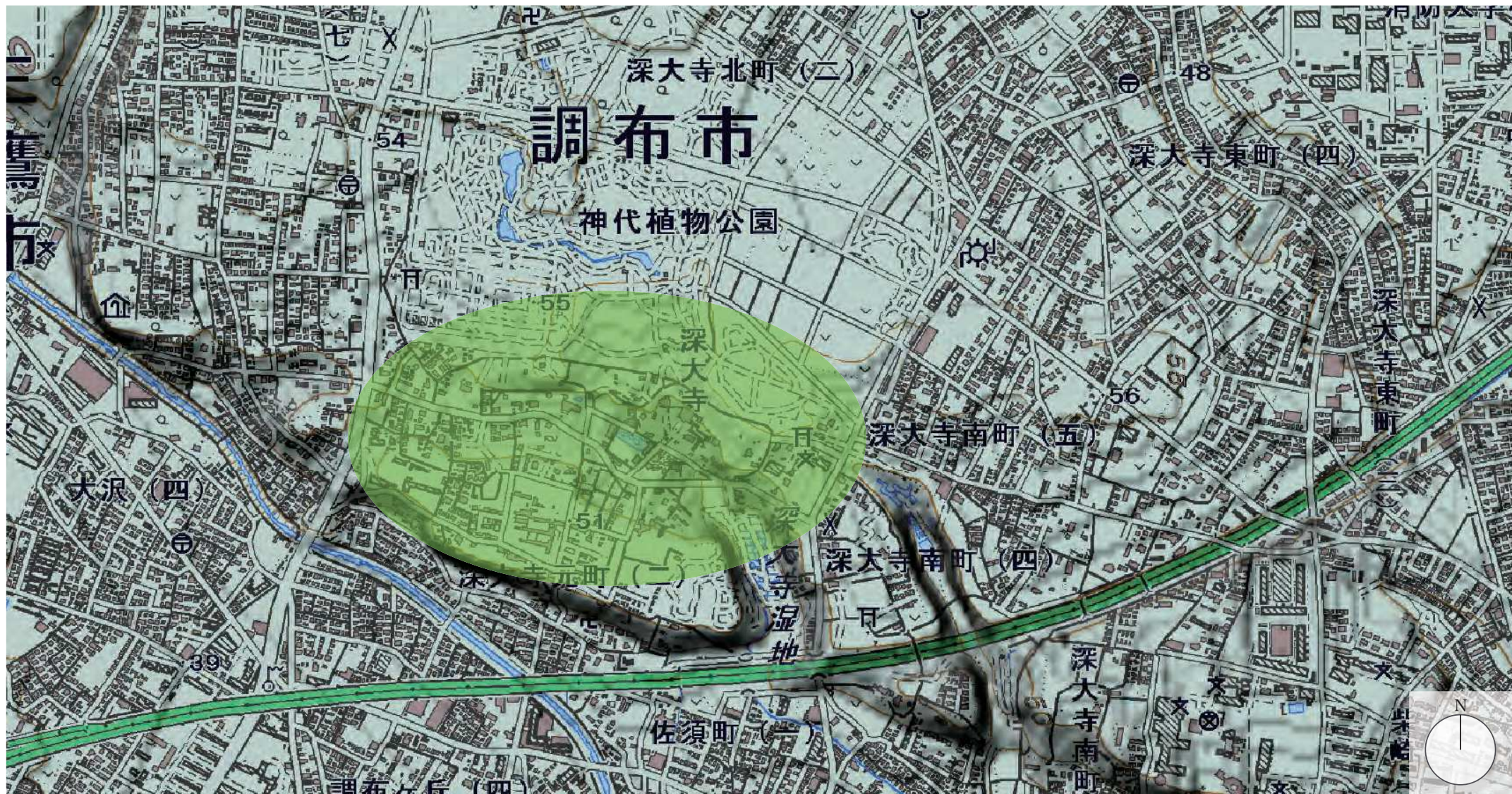


目次

01. 概説・断面
02. 深大寺周辺の変遷
03. 自然の変遷
04. まとめ
05. 水と人の関わり

01. 概説・断面

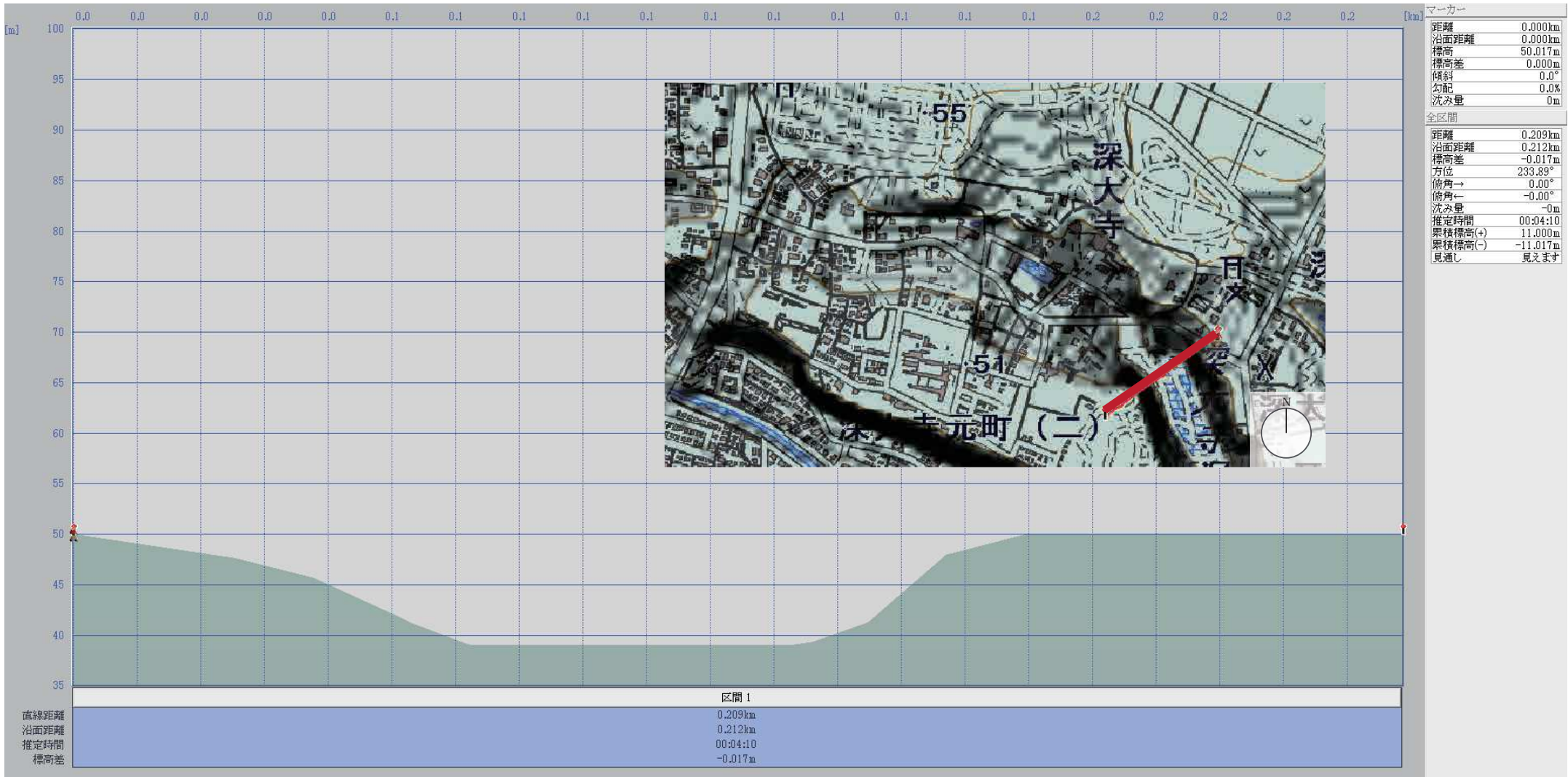
深大寺周辺の地形と川の流れ



緑の範囲を調査。

01. 概説・断面

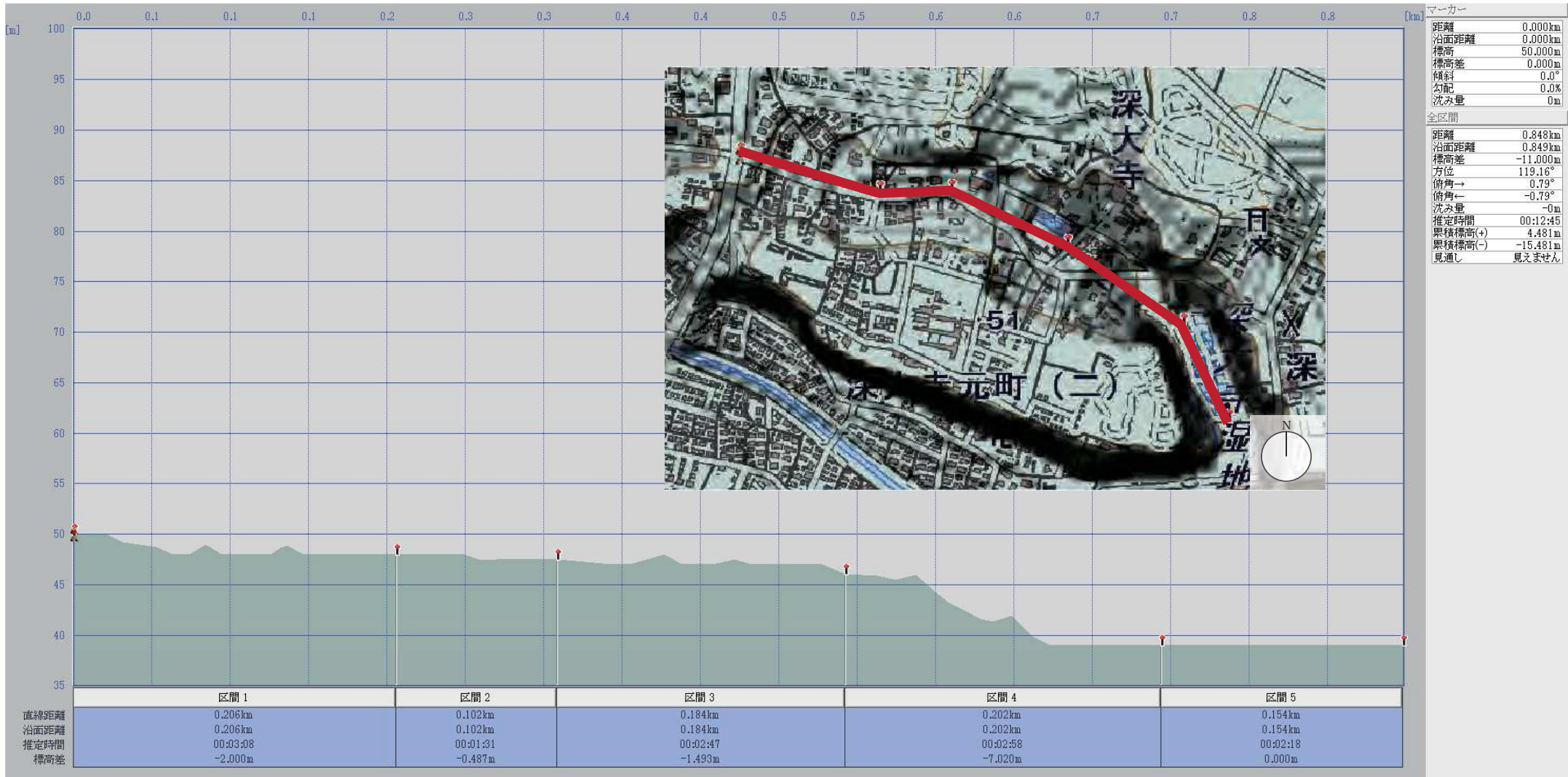
深大寺周辺の地形と川の流れ



武蔵野台地が川によってえぐれた地形。

01. 概説・断面

深大寺周辺の地形と川の流れ



西側が高台になっていて、川は西から東に流れている。

02. 深大寺周辺の変遷

1896年の地図

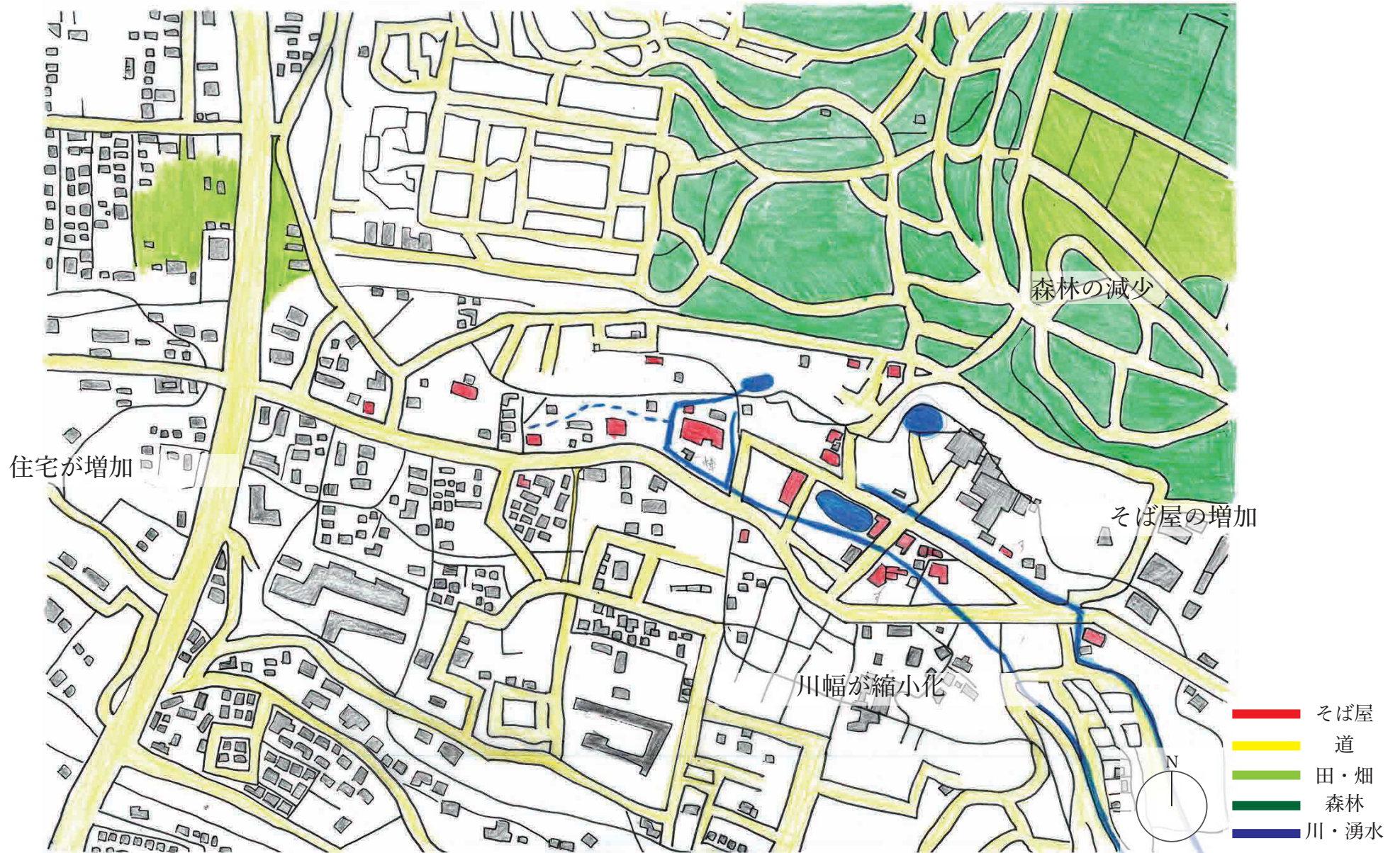


02. 深大寺周辺の変遷 1958年の地図



02. 深大寺周辺の変遷

2019年の地図



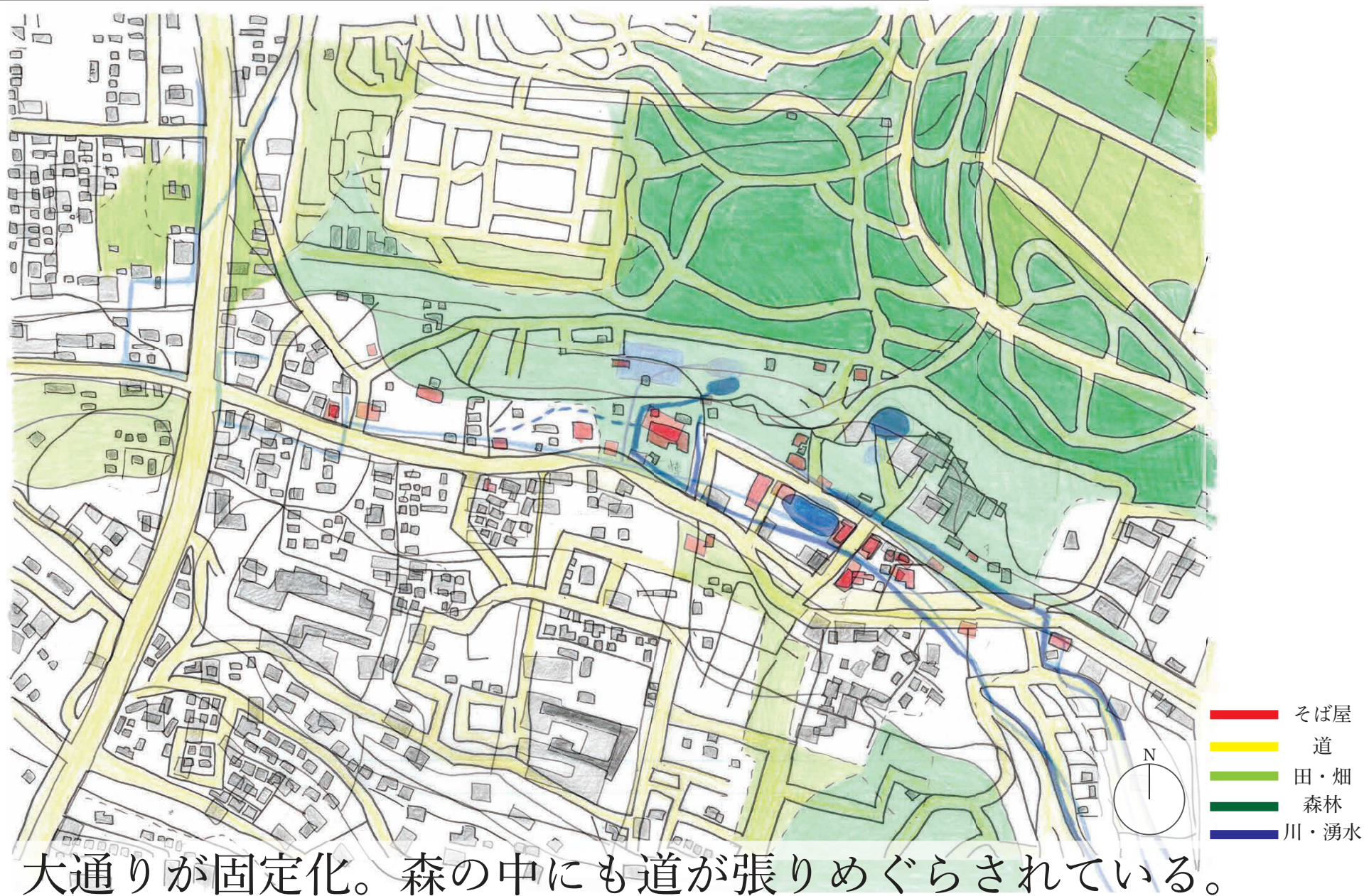
02. 深大寺周辺の変遷

1896年と1958年の地図の比較



大通りが形成され街区が増加

02. 深大寺周辺の変遷 1958年と2019年の地図の比較



03. 自然の変遷

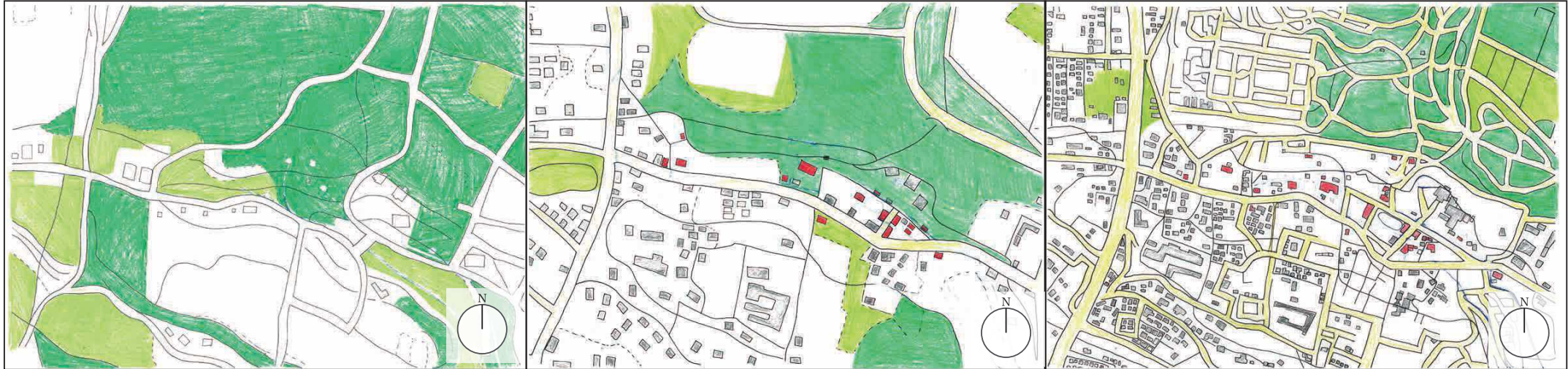
緑の変遷

- そば屋
- 道
- 田・畑
- 森林
- 川・湧水

1896

1958

2019



特徴

周辺は森林で覆いつくされている。

南部が住宅・観光地化。北部には植物園が出現。

急激に森林が減少。田畑はなくなり、森林は深大寺周辺のみに。

結論

高台という地形と水源地の存在により深大寺が出現。

植物園の出現により森林は減少。深大寺用水も使用不可に。

土地の住宅化により湧き水は減少。産業は1次から3次へ移行。

森林の減少は湧き水の量にかかわっていた。

03. 自然の変遷

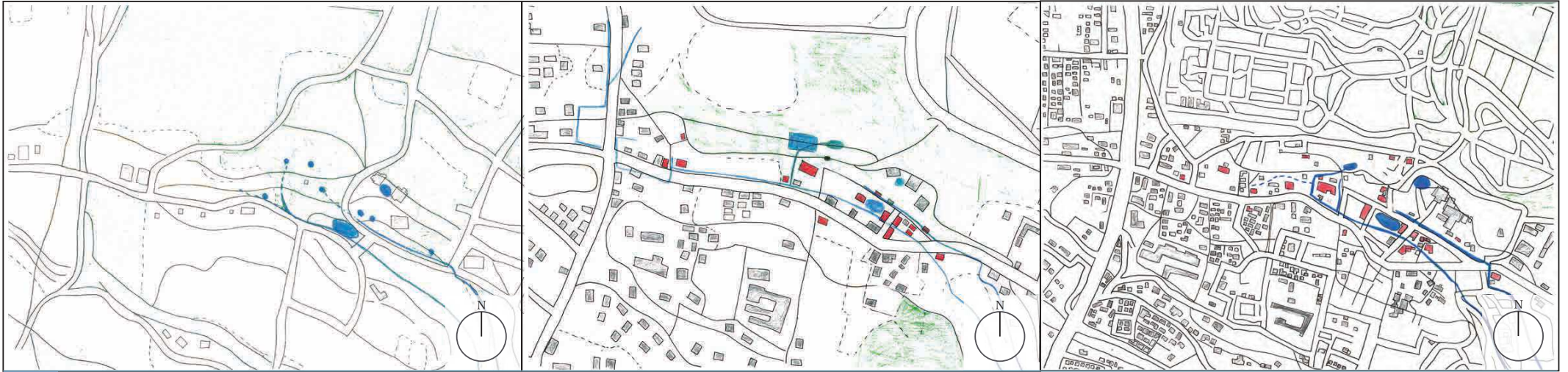
水の変遷

- そば屋
- 道
- 田・畑
- 森林
- 川・湧水

1896

1958

2019



特徴

8箇所の湧水地が存在

川の移転で西側に川が出現

湧水地は枯れつつある。

結論

武蔵野台地に沿って
川が流れた

川の周囲にそば屋が出現

都の道拡張により
深大寺用水が減少

現在にはみられなかったそば屋と川の関係がみえた。

04. まとめ

- ・時代の変化につれて森林は減少
- ・土地の住宅開発が進み、湧き水も減少

→森の減少と湧き水の減少は関係していた。

- ・行政によってできた川に沿って、そば屋が出現
- ・道路拡張により川は消えたが、そば屋は今も存在

→現在のそば屋と過去に存在していた川は関係があった。

05. 水と人の関わり

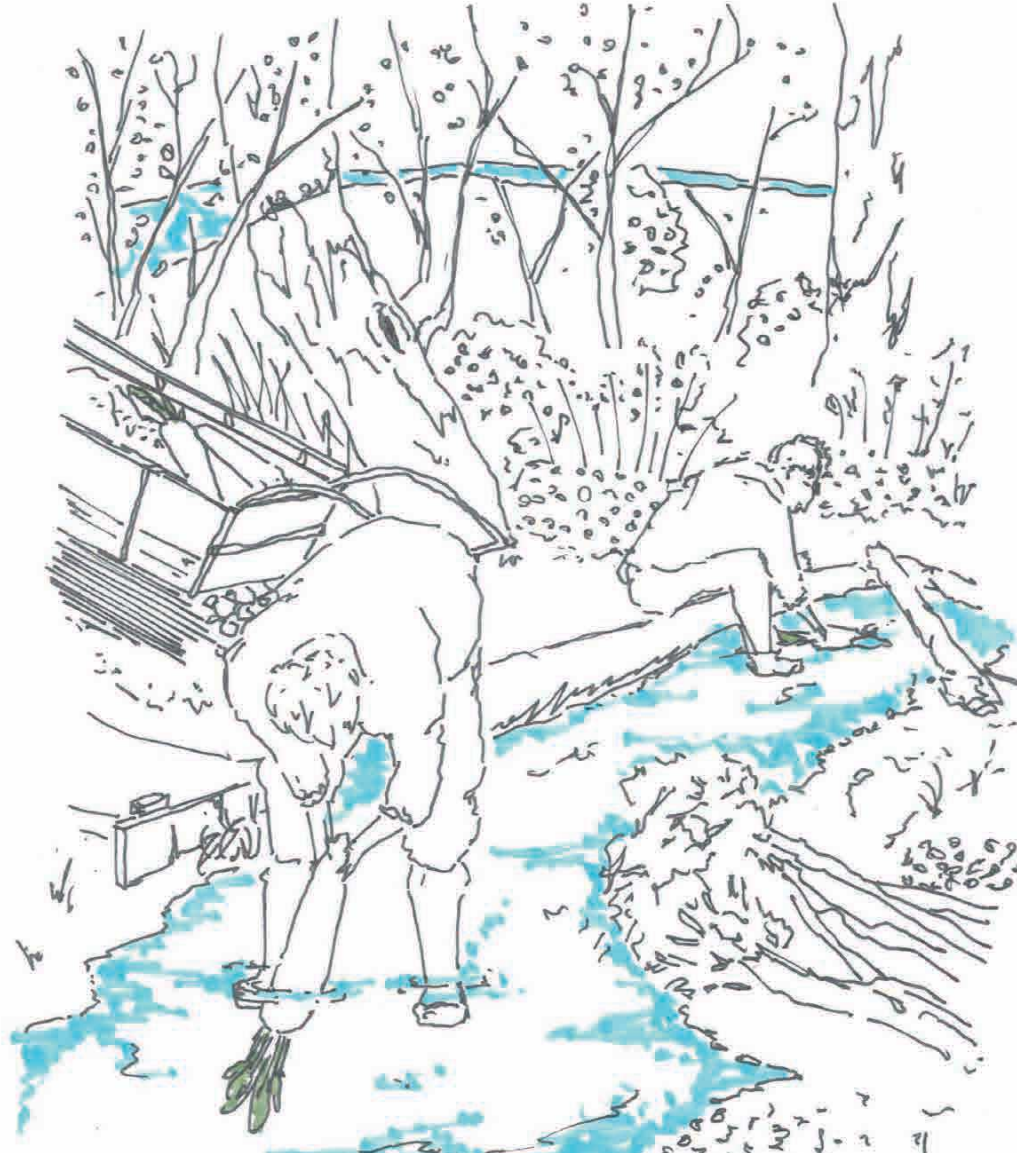
聞き込みから当時の様子を想像



深大寺用水は洗濯や生活用水に使われていた。

05. 水と人の関わり

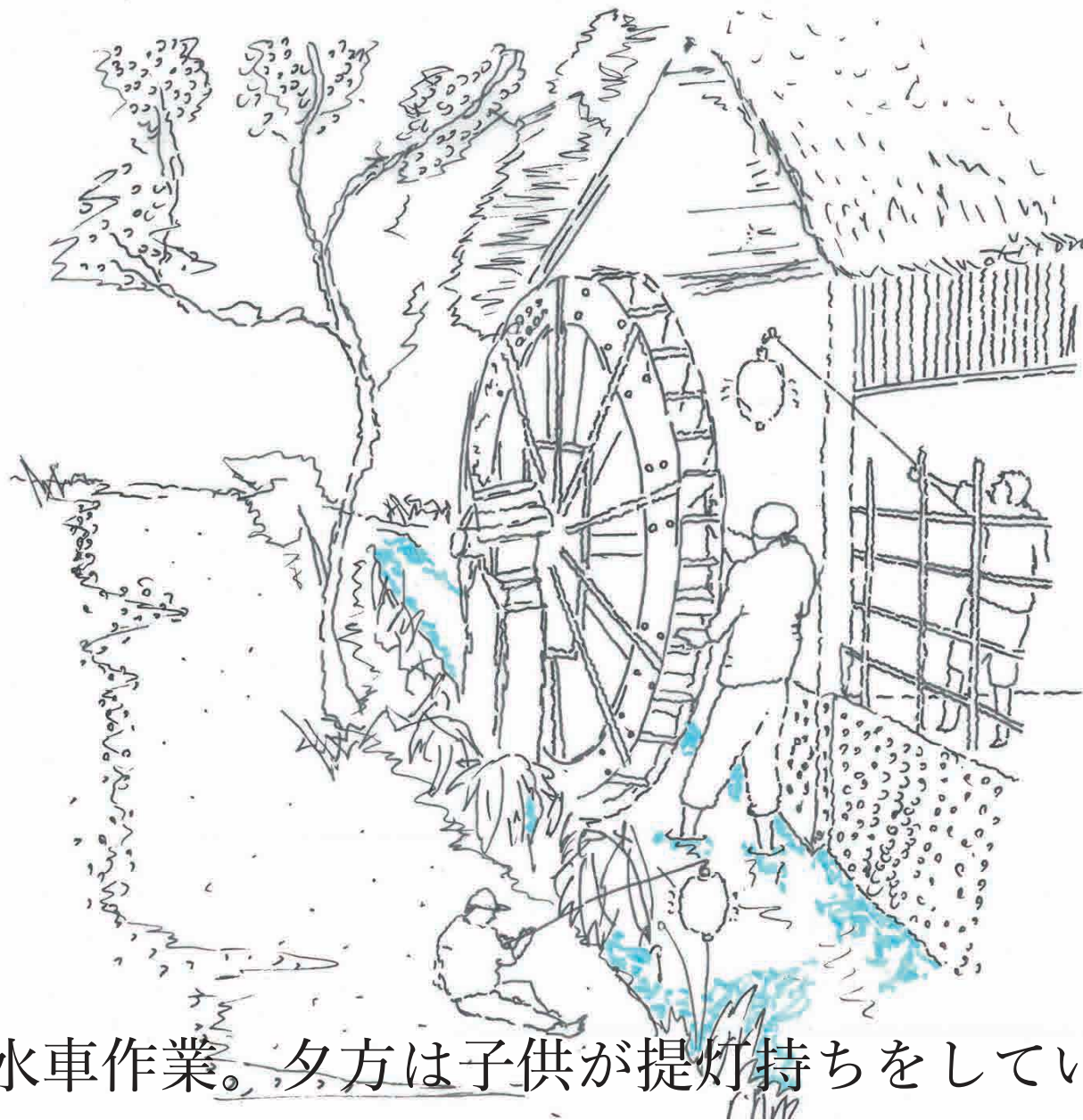
聞き込みから当時の様子を想像



野菜を洗う。川に集まることでコミュニティが生まれた。

05. 水と人の関わり

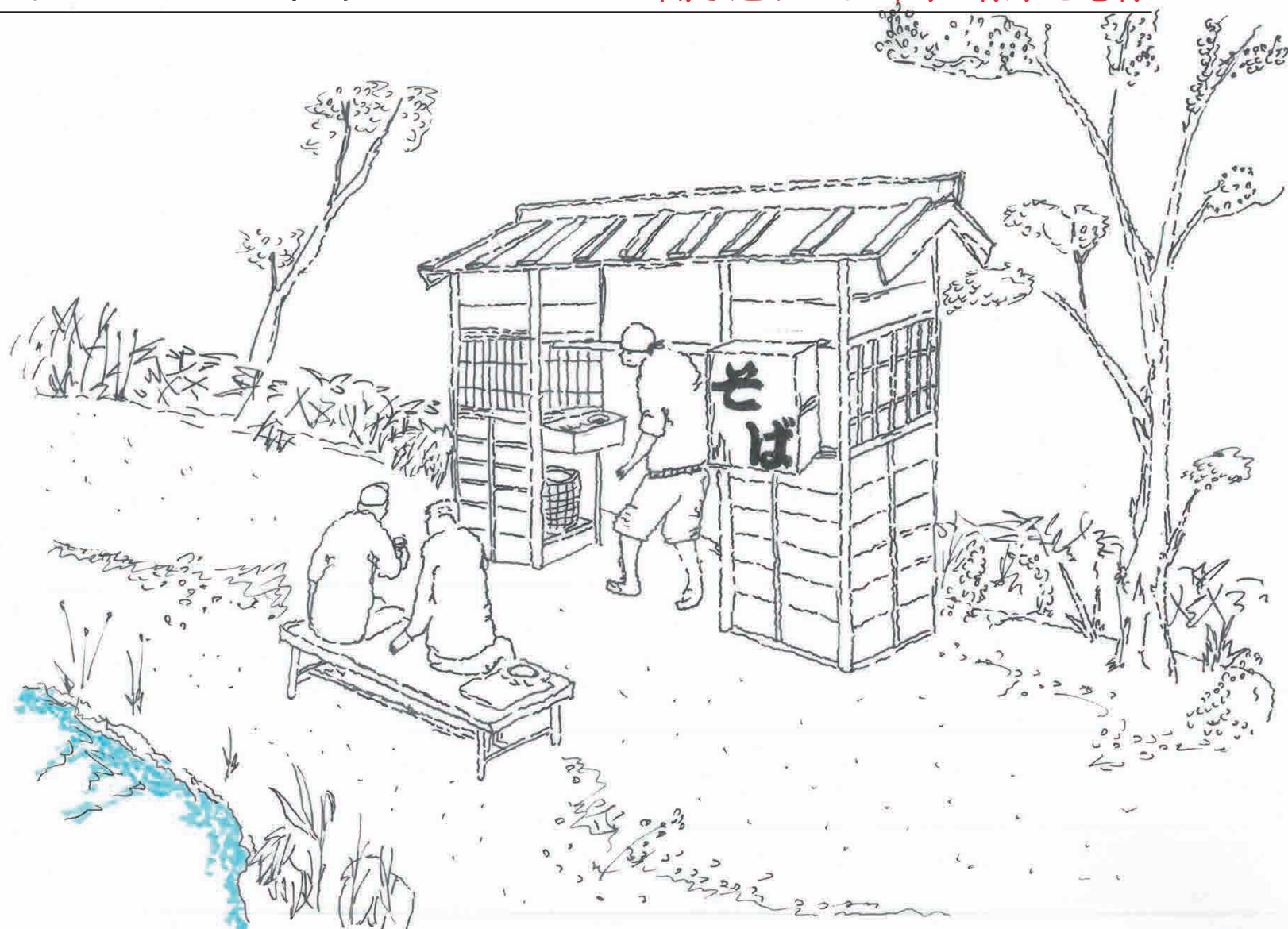
聞き込みから当時の様子を想像



水車作業。夕方は子供が提灯持ちをしていた。

05. 水と人の関わり

聞き込みから当時の様子を想像



屋台形式でそばをつくっていた。



水って素晴らしいね！！